

# かながわ子ども教室

## ニ ュ ー ス 第78号

### ダイヤかながわ交流会代表退任のご挨拶

白幡 善雄



2017年5月の総会で、大竹壽利前代表から Baton Touch を受け、代表としてあっという間に任期2年が経過し、この度退任の運びとなりました。その間、会員の皆様には一方ならぬご指導ご支援を頂きましたこと、まことにありがたく心から厚くお礼申し上げます。

後任として松下恵造さんが快く代表の座を引き受けて頂きました。感謝申し上げますと共に、若さと気配りの持ち主でありますので、引き続き皆様のご支持ご支援をお願い申し上げます。

振り返りますと、2017年9月は当交流会発足20周年にあたり、ほぼ1年前から準備委員会を立ち上げ、記念パーティを横浜国際ホテルにて多くのご来賓を招いて盛大に挙行出来ましたことは、任期中の大きな行事でした。記念誌の発行も含め、会員皆様が力を合わせた結果であり、DAA 他グループからノウハウの問い合わせも多数ございました。記念誌は交流会の歴史のみならず、会員の皆様の会隆盛の為の心意気や社会貢献などに対する積極的な行動など、素晴らしい充実した内容となっております。この成功を土台に今後も30周年に向けて着実に前進発展いたしますよう、切に願っております。

また2つの分科会及び7つの同好会開催も多数あり、幹事の皆様の工夫努力により、会員同志の楽しい時間を持てたこと、定例会・総会において会員個人の交友の広さからお願いできた滅多に聴けない興味深い外部講師特別講演や個性ある会員スピーチなど、期待を持って拝聴、いずれも深く心に残っております。

会員数が2年前は67名でしたが、現在は61名、新規入会もありましたが、逝去・体調不良・その他の事由により残念ながら退会者も多く、平均年齢もほぼ79歳と高齢化しております。人生100年時代に向かうなかで、社会とのつながりを出来るだけ維持することが「健康寿命」にも大きく寄与するとの研究も発表されております。ダイヤ財団としても種々工夫努力を試みておりますが、DAA 他グループも同傾向の状況です。これからも会員皆様のつながりをもとに、多くの知り合いにお声をかけて頂き、少しでも「交流会仲間」の増加がすすめばと期待しております。

2003年に交流会入会から16年経過いたしました。これからも健康に留意しながら、交流会及びNPO法人での与えられた役割を引き続き少しでも頑張りたいと考えております。松下恵造新代表へのご支援も重ねお願い申し上げます、退任のご挨拶といたします。

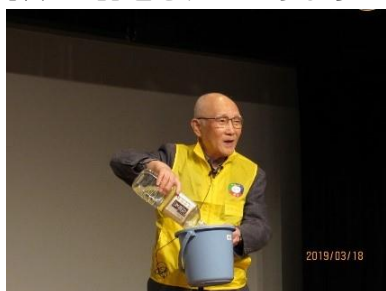
以 上

## DAA 全体交流会（第 20 回記念）が賑やかに開催されました

DAA 運営委員兼任 白幡 善雄

2019年3月18日新宿文化センターでの「DAA 全体交流会」は、第20回を記念して盛大に開催されました。当会から24名の会員皆様のご参加を頂き、全体でも147名と過去最高の参加人数でした。又プログラムの最初から終わりまで、主役も脇役も全て本日参加のグループの会員にて構成され、まさに「交流」を軸とした大会でありました。今後本交流会以外でもグループ間で様々な交流があれば、一層DAAも盛んになるとの期待を持たせる記念大会でありました。

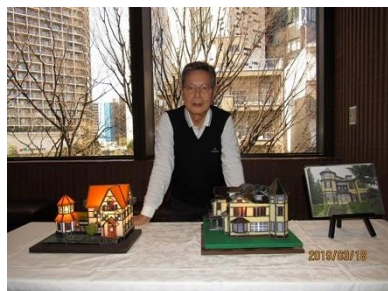
その内容は、4月26日に小島会員から会員の皆様へメール送信頂きました「DAA 叢書 16」に、詳細が記述されておりますので、是非ともご覧ください。



当会からは、第1部「地域活動グループによる活動紹介」では「かながわ子ども教室」概要説明（勝浦会員及び小島会員による）からスタートし「宇宙（西岡会員の遠心力のパフォーマンス）」「気象（真鍋会員のペットボトルの中に雲を作る実験）」「回転する浮沈子（勝浦会員の浮き沈む現象と原理の説明）」の実験や各種説明をそれぞれ披露いたしました。樋渡常務理事・福元委員長等多くの生徒役参加も頂き、パソコンの不具合はありましたが、会場の皆様の注目を十分引き付け、実験に挑戦しておりました。



第2部ではダイヤビックひばり会の実演指導、パフォーマンスが実施されました。当会からは実演指導に佐藤（邦）・羽佐田・松野・竹村夫人の参加を頂き、ダイヤビックレベル1を会場の皆様と2度楽しみました。



最後の第3部「地域活動グループの“キラビト”紹介」には、当会から飛田会員の「ステンドグラス」紹介をお願いいたしました。実際の作品も2点ご持参頂き、ロビーに展示され、皆様から賞賛の声がありました。退職後近隣地区センター主催の教室で習い始めたのですが、見事な作品多数のご紹介もありました。



発表会終了後は、恒例によりレストランにて「懇親会」となり、他グループの方との交流もすめられ、楽しい一日となりました。目的であったお互いの理解にプラスとなったのではと思われ、ご参加頂きました会員の皆様には心からお礼申し上げます。

以上

## 川崎市青少年フェスティバルに参加して

新井 清隆

こども未来局主催（市教育委員会共催）の川崎市青少年フェスティバルが、3月17日（日曜）に川崎市とどろきアリーナで開催されました。このフェスティバルは青少年育成推進委員会が実施しており、青少年自身の企画運営により、社会参加を図ることも目的としている遊び体験イベントです。本年も「かながわ子ども教室」より18名が参加しました。平成22年より「おもしろ科学実験教室」として参加し、かながわ子ども教室におけるメインイベントの一つとなっています。今年も、「海洋」「空気」「光学」「電気」の4教室をメイン会場のエントランスホールで開催しました。



当教室のチラシは教育委員会を通じ、周辺の小学校に配布されており、来て頂くのに有効であることも判った。青少年育成連盟はこども会連盟、ガールスカウト、ボーイスカウト、海洋少年団等が所属しており、これら所属の方々が趣向を凝らしたイベントを行っていた。今後これらの組織へのチラシ配布も行う予定である。10時からの開会式では、フェスタ実行委員の方が勢ぞろいし、元気な挨拶でスタートした。



我々のブースには開始の10時前に来訪者があり、その後も続々と親子連れが訪れた。予報とは異なり終日天気も良く、15時半まで来訪者は途切れることがなく、約1000の方が来場しました。



福田市長来訪

小学校低学年などの親子連れが大部分であり、皆目を輝かせて楽しんでいました。光の屈折では親御さんの「なつかしい」との声、偏光板での色の変化は大人も含めて驚きの声が上がっていた。また今年子どもを入学させる親御さんから、「どうすればこの教室を受けられるのですか?」という声もあり、多くの方に興味を持って頂いている。



昨年よりホワイトボードを使い教室ビデオを放映し、教室紹介に有効であった。

今年も午前中に福田市長が来られて、モーターと発電機の実験を熱心に体験された。来場した子供たちは順番を守り、帰り際の「ありがとうございました」との礼は気持ちの良いものであった。

## <かながわ子ども教室> (森英敏)

平成 30 年度の教室活動の要旨を報告いたします。

### 1. 教室開催回数と参加者数

今年度は前年度に比べ開催回数は前年に比べ微減であった。しかしながら会員数減少のため、とくに下半期はサポーターが集まらずその調整に苦労した。

	平成 29 年度	平成 30 年度
科学教室	127 回	128 回
暮らしの教室	22 回	17 回
フェスタ	7 回	5 回
会員参加者	1,065 人	1,034 人
生徒参加者	5,871 人	5,298 人
教室	(3,934 人)	(3,874 人)
フェスタ	(1,937 人)	(1,424 人)
保護者等参加者	2,038 人	1,832 人

富山で行われた「ねんりんピック」は会場の中で当会にあてがわれた場所が人の流れからちょっと外れたところで人が集まりにくく、その上2日目は雨が降り残念ながら昨年より参加者が減少した。その中で幹事の一人がチラシと浮沈子（実物）を持って呼び込みの努力は特筆すべきことだったと思います。

### 2. 新しい教室と今後の進め方

昨年度から準備を進めていた「ロボット教室」がいよいよ今年から開講した。講師は2名で務めているが、人気があり引く手あまたの状況である。ロボットという名前、また内容がプログラミングの入門的なことであるので、このような状況になっているのだと思う。また従来の「光学・ひかりの実験教室」と「光学・色の実験教室」を統合して「ひかりと色」として再スタートした。

講師が死去したために「子どもの化学」「日本の食べ物」の2つの教室が休みの状態になっている。誰かに引き継ぎを行うべく検討中である。

また新年度中に1教科の新設を目標に掲げて努力中である。

### 3. 委員会の状況

現在ホームページ委員会が非常に活発に活動している。各教室の状況をビデオにとりそれ

を編集してHPにアップしている、また貸借対照表をHPにアップするなどさまざまな活動ぶりは目覚ましいものがある。

#### 4. 外部からの取材

日経新聞の取材が、3月26日に横浜中央YMCAでの教室の時にあった。この記事が4月25日日経新聞夕刊のセカンドステージという欄に掲載された。この反響は大きく横須賀、藤沢から教室開催の問い合わせがあった。またこの記事を見て当会に興味を持ち入会された方が現れた。非常にうれしいことである。

以上